

第17回「古典の日」朗読コンテスト(2025年)

第17回古典の日朗読コンテスト公開最終審査会と表彰式が開催されました

会場の金剛能楽堂前の鳥丸通りのイチョウも綺麗に黄色に色づき、紅葉が美しく映える青空の11月29日(土)に、第17回古典の日朗読コンテスト公開最終審査会と表彰式が開催されました。

今年は、【一般部門】226名、【中学・高校生部門】201名 合計427名の応募がありました。詳細は、下記の表をご確認ください。

<応募状況詳細>

	一般部門	中学・高校生部門		合計
		中学生	高校生	
おくのほそ道	63名	27名	44名	134名
曾根崎心中	46名	11名	16名	73名
雨月物語	64名	23名	23名	110名
南総里見八犬伝	53名	33名	24名	110名
合計	226名	94名	107名	427名

■会場風景

公開最終審査会の会場は、昨年に続き金剛能楽堂でした。能舞台に立てることはなかなかないので、出場者の方からは大変喜んでいただいている会場です。



■主催者代表挨拶・来賓挨拶



古典の日推進委員会ゼネラルプロデューサー
野崎 貴典



文化庁 文化戦略官兼政策課長
横井 理夫

■最終審査会出場者の朗読

今年のテーマは「江戸の文学～印刷・出版で花開いた多彩な文化～」です。

江戸時代、戦乱が終わり人々は安心して経済活動を行えるようになり、様々な文化が武士だけでなく町人にも栄えるようになりました。庶民の生活や風俗が文学の題材となり、中世から受け継がれた物語、和歌、能などの伝統的なジャンルに加え、俳諧、川柳、狂歌、仮名草子、浮世草子、黄表紙、洒落本など、新しい文学ジャンルが多数登場。印刷技術の発達によって、多様な文学作品が、絵入りで出版され広く流通し、庶民文化が花開きました。そんな中から今回課題にしたのは『おくのほそ道』『曾根崎心中』『雨月物語』『南総里見八犬伝』の4課題です。この中から1課題を選び、指定範囲を朗読して応募していただきました。一次・二次審査を通過された、合計14名(中学生3名・高校生3名・一般8名)が公開最終審査会に臨まれました。

※朗読順は、審査前に中学生・高校生・一般と別れてクジ引きをして決まりました。

<中学生>



佐藤 心春
(愛知県・南山中学校女子部3年生)
作品:『曾根崎心中』



中谷 凜
(兵庫県・西宮市立浜脇中学校3年生)
作品:『雨月物語』



中尾 楓
(福岡県・福岡市立春吉中学校3年生)
作品:『南総里見八犬伝』

< 高校生 >



大八木 彩衣
(京都府・平安女学院高等学校1年生)
作品:『南総里見八犬伝』



赤坂 理菜
(静岡県・東海大学付属静岡翔洋高等学校2年)
作品:『曾根崎心中』



加藤 結菜
(岐阜県・岐阜県立多治見北高等学校1年生)
作品:『おくのほそ道』

< 一般 >



近森 康子(兵庫県)
作品:『曾根崎心中』



緒方 日登美(京都府)
作品:『南総里見八犬伝』



坪田 千恵子(福井県)
作品:『南総里見八犬伝』



中村 和恵(北海道)
作品:『雨月物語』



直井 知恵子(滋賀県)
作品:『雨月物語』



岡崎 節子(大阪府)
作品:『南総里見八犬伝』



千葉 扶美子(兵庫県)
作品:『南総里見八犬伝』



棟方 良(京都府)
作品:『おくのほそ道』

■インド古典舞踊～鈴の音が語り継ぐ、いにしえよりの常住と無常～

インド舞踊は4000年もの歴史を誇る世界最古の民族舞踊です。しかも単なる踊りではなく、踊りが神との意思交流を図る唯一の手段だったため、一挙手一動作に意味があり、わずかな目の動きにも魂が込められています。地域や歴史的背景によって多様なスタイルが存在します。今回、能舞台の上で披露いただいたのは、野中ミキさんと金澤倫子さんのお二人でした。



金澤 倫子(南インド古典舞踊家)

ダヤ・トミコ氏に師事。2011年、インド政府奨学金生として渡印。南インド、チェンナイにあるV.P&Shanta Dhananjayan氏の舞踊学校「Bharata Kalanjali」に入学。2012年、チェンナイにて日印国交60周年記念事業ソロ公演を行い帰国。現在、家業である御菓子司 若狭屋久茂の八代として日々、京菓子を作りながら舞踊活動を続けている。インドの芸能・文化の紹介、普及を目指す団体「インドアーツサンガム京都」所属



野中 ミキ(東インド古典舞踊家)

1977年よりインド舞踊を京都市の舞踊研究所で学び始める。1990年より故グル・ラマニ・ランジャン・ジェナに東インド古典舞踊オディッシィを師が逝去される2016年まで師事。1992年秋より自主企画の公演を行うほか、公演の企画や後進の指導にも務めている。オディッシィダンススタジオ カマラ・カラ・ピータ代表インド アーツサンガム京都代表



■出場者の中学・高校生にインタビュー

昨年に続き、今年も出場者の中学生と高校生にインタビューをしました。

緊張するコンテストが終了し、みなさんリラックスした様子で素敵な笑顔で今回の課題についてや、将来の夢をお話していただきました。



■ 審査発表・表彰式

今年は課題が難しかったと審査委員の先生方が審査中に言われていましたが、そんな中無事に受賞者が決定しました。一般部門の大賞を受賞された中村さんが、受賞後のコメントで言葉を詰まらせながら、朗読講師の先生へお礼を述べられ、会場にいた皆さんが胸を打たれました。

また客席の皆さんが審査委員になって選出される「みんなの感動賞」は、中学生・高校生・一般の部門関係なく1票を投じていただく大変難しい選出なのですが、3回目となる今年は、中学・高校生部門で大賞を受賞された大八木さんが、ダブル受賞されました。



大賞:【一般部門】
中村 和恵(北海道)
作品:『雨月物語』



大賞:【中学・高校生部門】
大八木 彩衣
(京都府・平安女学院高等学校1年生)
作品:『南総里見八犬伝』



特別賞:文部科学大臣賞
坪田 千恵子(福井県)
作品:『南総里見八犬伝』



特別賞:京都府知事賞
直井 知恵子(滋賀県)
作品:『雨月物語』



特別賞:京都市長賞
千葉 扶美子(兵庫県)
作品:『南総里見八犬伝』



特別賞:宇治市長賞
近森 康子(兵庫県)
作品:『曾根崎心中』



特別賞：京都商工会議所会頭賞
岡崎 節子(大阪府)
作品：『南総里見八犬伝』



特別賞：京都府高等学校文化連盟会長賞
赤阪 理菜
(静岡県・東海大学付属静岡翔洋高等学校2年)
作品：『曾根崎心中』



特別賞：古典の日推進委員会中学生奨励賞
中谷 凜
(兵庫県・西宮市立浜脇中学校3年生)
作品：『雨月物語』



みんなの感動賞
大八木 彩衣
(京都府・平安女学院高等学校1年生)
作品：『南総里見八犬伝』

■ 審査講評

表彰式の後には、審査委員の先生方お一人、お一人から講評をいただきました。



審査委員 井上 恭子



審査委員 杉山 準



審査委員 辻 ひろ子



審査委員 林 英世



審査委員長 中村 宏

■ 最終審査会出場者 集合写真



■ 総合司会



司会者 星野 祐美子

来年の課題発表も、例年と変わらず4月中旬から4月下旬予定です。次回も沢山の皆様からのご応募を、お待ちしております。



大賞受賞者のお二人に、古典の日朗読コンテストに向けて取り組まれたことや、想い、苦勞されたこと、工夫されたこと、コンテストに参加された感想等をご寄稿いただきました。既にコンテストに挑戦いただいている方や、これから初挑戦される方の励みになればと思います。

—◆◇—◆◇—◆◇— ◆◆—

「古典の世界観にふれて」平安女学院高等学校1年生 大八木 彩衣



私は「南総里見八犬伝」を朗読させていただきました。
練習では、自分の朗読を録音し、何度も聴き返すことを大切にしました。本番は緊張しましたが、不安よりも精一杯楽しもうという思いの方が強かったです。他の方々の朗読を聴くことで、古典と朗読の魅力を改めて感じることができました。

金剛能楽堂という素敵な舞台で多くの方に朗読を聴いていただけた経験は、私にとって一生の宝物です。応援して下さいましたみなさま、本当にありがとうございました。

—◆◇—◆◇—◆◇— ◆◆—

「舞台に立つということ」 中村 和恵



私はあがり症で、人前に立つと震えてしまうため、最終審査会出場のご連絡をいただいた時は大変驚くとともに、北海道在住ということもあり、ほとんど辞退するつもりでお話を聞いておりました。

ですが、通っている朗読教室の先生に報告すると本当に喜んでくださり、自分の気持ちよりもそのことが大変嬉しく、また、金剛能楽堂の舞台に立てるのも一生に一度のことだと思い、病院であがり症の症状を抑える薬をもらって参加させていただきました。

結果、それでもやはり少し震えてしまいましたが、大賞をいただくことができました。

もし、あがり症を理由にコンテストへの参加をためらっている方がおりましたら、ぜひ病院の力を借りるのを試していただけたらと思います。